

特定非営利活動法人

Alternative People's Linkage in Asia

APLA

2015 年度事業報告



2015年度は、アジアのパートナー地域での、継続して若い農民の育成に力を入れました。フィリピン・ネグロス島では、農業研修を受けた若者たちが自分の地域で循環型農業を始め、自活をめざすためのサポート体制を強化してきています。東ティモールでも、農業研修を受けた若者たちが、地域住民への経験共有などを通じて次世代リーダーへと育ち始めています。各地域で、作物多様化や地域の水源保全が根を張りつつあります。来年度は、フィリピンと東ティモールの青年たちの経験交流を実現し、その学びから各地域の活動をさらに深化させていくことをめざします。

日本国内では、移動カフェ出店や全国各地での手作りチョコレートワークショップなど、積極的に外部に出ていくことで、民衆交易の新たなファンづくりに力を入れてきています。

海外プロジェクト支援事業

フィリピン・ネグロス島

「次世代の農民の育成」「KF-RCの自立運営の確立」の2つをテーマに活動を進めました

- 2015年8月から、第6期生となる若者6人がカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（以下KF-RC）での研修をスタートしました。KF-RCスタッフの第1人、ネグロス島南部に位置するカバンラン市の2つの農民組織から4人、KF-RC前代表アルフレッド・ボディオスさんの紹介で1人の計6人です。2016年2月、第6期生6人の卒業式を開きました。その後、養豚を中心にKF-RCで学んだ循環型有機農業を実践するために、豚舎造りを実施。2016年3月までに1つの豚舎造りが終了し、今は自立した農民をめざし、日々頑張っています。2013年度に研修を終えた第4期生のマーヴィン・クエリヨさんは、カンルソン地域のバラゴン生産者協会の委員長になり、KF-RCで学んだ知識や経験を地域に還元しています。
- 第5期生から設置した「卒業生サポート基金」を引き続き、運用していきませんが、今回の第6期生から卒業後の研修生のサポートの仕組みを変更しました。これまでは、卒業後にKF-RCから子豚4匹とその餌代3ヵ月分を貸し付け、卒業生は3ヵ月後に育った豚（肥育豚）を販売して、その売り上げからローンを返済し、残った額が卒業生の収入になる仕組みでした。第6期生からは、研修開始時にKF-RCから子豚と飼育にかかる餌代を貸し付け、研修中に1人1人が自分の豚を育てることにしました。約半年後の卒業時にはその豚は母豚となる準備ができていますので、その豚をKF-RC内で交尾させて、地元で母豚として持って帰る仕組みです。子豚が産まれたら、販売してローンを返済し、残った子豚は卒業生のものになります。卒業生は、その子豚を販売することも肥育豚として育てることも可能となります。
- KF-RCの農場では、現在6人のスタッフが働いています。2016年1月4日、設立時から代表をつとめたアルフレッド・ボディオスさんが逝去されました。それを受けて1月中旬に農場の運営体制を再編しました。事務局長にエリマー・トグハップさん、副事務局長にジョネル・ベントウラさんが就くことに決まりました。ふたりは第1期の研修生でもあり、初期から苦労を共にしてきました。理事会の体制も再編し、新理事長には、これまで理事であったオルター・トレード社（ATC）社長のヒルダ・カドゥヤさんを、新理事にはKF-RCスタッフのチータ・タカタさん、KF-RCの養豚事業のご指導をしてくださっているビビアン・バルガスさんが選出されました。
- ATCとの協働が進みました。昨年度に引き続き、ATCの会計担当者による会計セミナーを実施。バラゴンバナナの生産地域で養豚・堆肥作りを進める新しい計画にKF-RCのスタッフが講師役として参画したり、ATCが始めた有機野菜の宅配サービス用にKF-RCの野菜を出荷するなどしています。

※ ATC：オルター・トレード社。バラゴンバナナやマスコバド糖を出荷、輸出する事業体。



農作業中の第6期生の様子



KF-RCのスタッフたち。お揃いのKF-RC・Tシャツを着て

フィリピン・北部ルソン

北部ルソンとネグロスの農民たちが交流しました

北部ルソン、ヌエバ・ビスカヤ州のマラピン渓谷で柑橘栽培を営んでいる農民たちがネグロスの KF-RC を訪問し、交流しました。お互い BMW 技術を用いて、循環型農業や持続可能な地域環境づくりに取り組んでいる農民たちです。今回の交流を通じて、手に入る道具や資源を活用した農業の進め方、BM 活性水の効果的な使い方など、お互いの知識や経験の共有ができました。今回の交流を経て、それぞれの気づきや学びが実践に移されていくことを期待しています。

※ BMW 技術：微生物（バクテリア）とミネラルの働きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現する技術のこと。BM 活性水は、この技術により作られる活性水。



フィリピン・北部ルソンとKF-RCの農民たち

インドネシア

エビ養殖地域の環境悪化に関する課題を共有しました

現地 NGO の KOIN（インドネシア保全）と、エビ養殖池周辺の環境に関する課題と民衆交易運動の中長期的な展開について、意見交換を持ちました。生産者と消費者をつなぎ、APLA としてどういった協働が可能かの検討を続けていきます。

東ティモール

コーヒー生産者による地域づくりの取り組みが進んでいます

- コーヒー生産者グループ Fitun Caetano（フィットウン・カイトノ）と GATAMIR（ガタミル）、Lekisara（レキサラ）、Talo（タロ）の 4 グループで、3 人の若手リーダーが中心となって、果樹や野菜の他品種栽培などが着実に進んでいます。一方で、種や苗については、課題が残っており、自分たちで種取りできる野菜、苗を育てられる果樹などの種類が限定されているので、援助で配布されたり、いちばで購入したりしたハイブリッドの種に頼ってしまう人が多いのが現状です。2016 年度の目標として、各グループが自分たちの種子バンク、苗床をもつことがあがっています。
- 女性メンバーたちの活動も継続されており、GATAMIR はオレンジワインの製造・販売によって収入を積み上げ、グループメンバー間の信用貸付を継続しています。また、2015 年 4 月にワークショップをおこなった改良かまども各家庭に導入され、有効活用されています。そうした成果に刺激を受け、他の 3 地域でも女性たちがグループでの活動に意欲的になっています。そうした姿勢を後押しするように、グループ間の交流の機会を設けました。

- 昨年度に引き続き、環境活動家のエゴ・レモスさんの協力の元、2015 年 11 月に住民参加型の水源保全・土壌改良活動を Lekisara 地域で実施しました。初めての試みとして、地域の小学校（生徒、先生）を巻き込んで、子どもたちが学んだことを家に持ち帰って実践できるようなプログラム構成にしました。Lekisara の地域住民以外に、他の 3 グループの代表者や環境活動に取り組む青年たちなど、合計で 90 人近くが参加しました。こうした水源保全活動の意義について東ティモール国内に広く伝えるための映像作品（テトゥン語＋英語字幕／約 15 分）が完成し、現地での上映以外に、youtube で公開しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=WZUUK7tM7Fo>



各家庭およびグループの畑での多品種栽培が進んでいます



子どもも大人も一緒に地域の環境保全について学びました

互恵のためのアジア民衆基金 (APF)

2014 年の第 5 期総会で合意された「幹事社員制度」に則して、フィリピンの ATC 及びパレスチナの UAWC（パレスチナ農業開発センター）と PARC（パレスチナ農業復興委員会）それぞれが自主的に判断し、地域の組織に対して融資を実施することが開始されました（各年間 200 万円）。

第 6 期総会は、2015 年 11 月 6 日にネグロスで開催されました（APF 理事である APLA 秋山共同代表は、諸事情により出席を断念）。この総会で ATC 職員信用組合が社員に新規加入して、小規模貸付事業のために約 500 万円の融資が実施されました。また、APF 総会に引き続き開催された「ネグロス・サミット」に APLA 事務局から寺田俊と共に KF-RC スタッフが参加しました。

一般社団法人互恵のためのアジア民衆基金 (APF) とは…

APF は、南の民衆と北の市民の連帯・交流の一つの新しい形です。南の民衆の経済的自立に必要な資金を、北の市民が基金に寄附し、それを必要とする団体や地域社会に低利で融資します。また、アジア各地の民衆の経験や知恵を共有する仕組みとして、相互に助け合い、教え合う役割も果たします。

【社員数（国別）】

インドネシア：2、韓国：2、日本：24、パキスタン：1、パレスチナ：2、東ティモール：1、フィリピン：4、マレーシア：1

◎ 2015 年度現在、「幹事社員制度」以外の融資総額約 5300 万円のうちの貸付残額約 4000 万円を含めて、融資基金は約 1 億 1000 万円となっています。

◎ これまでの融資案件については、フィリピンの CORDEV に続き、東ティモールの KSI（淡水魚養殖、地鶏生産販売事業：290 万円）が頓挫しています。

◎ 韓国から APF に参加しているハンサリム生協、ドゥレコープ生協は、民衆交易事業の拡充を進めており、社員間の連帯が深まってきています。

2015 年度カレンダー

4月

- 5 第2回ロータス寺市に出店
- 17-24 東ティモールに出張
- 18-19 アースデイ東京2015にオルター・トレード・ジャパン(ATJ)と共同で出店
- 25 理事会・評議員会開催

5月

- 2 恵比寿ガーデンプレイスフェスタ「Life is Delicious 大人の美味しい休日」に出店
- 4 「今日だけ、こどもパーク！」に出店 (P to P Café)
- 9 フェアトレード・マルシェに出店
- 23 第8回総会を開催
- 24 東京朝市・アースデイマーケットに出店(P to P Café)
- 24 WE21相模原企画の「WE講座」で講演

6月

- 18 東洋大学で講義
- 20 ATJと共催の公開セミナー「バランゴンバナナの民衆交易はどこまで生産者の自立に寄与できるのか〜フィリピン産地調査報告〜」開催
- 26 パルシステム埼玉・ふじみ野地区会でコーヒー講習会
- 28 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 28-7/9 フィリピン (北部ルソン、ネグロス)に出張

7月

- 2 NGO非戦ネット設立記念イベント「NGOは安保法制とどう向き合うか？」に参加
- 7 パルシステム埼玉・熊谷地区会でコーヒー講習会
- 16 福島県再生可能エネルギー合同ビル開所式および記念講演会に参加
- 18,19 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 25 「ガザ攻撃から1年・7.25NGO共同イベント実行委員会」に参加し、講演会+キャンドル・ウォーク「ガザ紛争から1年〜国連はなぜ解決できないのか〜」を開催

8月

- 1 草の根市民基金・ぐらん交流会に参加
- 9 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 20-21 BMW技術基礎セミナー
- 26 パルシステム埼玉・平和フェスタに参加
- 26 「辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク」設立集會に参加
- 26-9/6 東ティモール、インドネシアに出張

9月

- 1 東京経済大学のネグロスツアー事前学習会で講義
- 12 第三回ロータス寺市に出店
- 15 特定非営利活動法人シャローム (福島県福島市)を訪問
- 15-26 フィリピン・ネグロスに出張
- 26-27 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 28 パルシステム東京・食と緑の委員会でピースカフェ (バナナについて)

10月

- 2 パルシステム埼玉・川越地区会でコーヒー講習会
- 3 理事会・評議員会開催
- 12 アーユス、NIJとの共催で「おいしいコーヒー入門講座@清澄白河〜フェアトレードコーヒーの魅力を探る〜」を開催
- 16 パルシステム東京・武蔵野委員会でコーヒー講習会
- 17 パルシステム東京・桜委員会でピースカフェ (APLAの活動について)

- 19 グリーンコープ共同体 fromネグロス学習会
- 25 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 26-11/27 グリーンコープ共同体“fromネグロスセミナー”で各地訪問 [おおいた、ふくおか・北九州地域、おおさか、さが、かごしま、(島根)、ふくおか・福岡地域、ひょうご、ふくおか・中部地域、やまぐち、ふくおか・南地域、くまもと、おこやま (開催日順)]
- 29-11/11 フィリピン・ネグロスに出張。期間中、ネグロス・フード・サミット、バランゴン・サミットに参加

11月

- 1 土と平和の祭典2015に出店
- 12 パルシステム埼玉平和募金団体交流会に参加
- 13-14 BMW技術全国交流会に参加
- 14-15 APLA福島ツアーを開催
- 15 第1回「再生エネルギー事業化準備会」に参加
- 15 JCNC北海道交流会に参加
- 21-22 バタゴニア東京・吉祥寺ストアで開催された「エシカルマーケット」に出店
- 28 チョコレート・アライアンス主催の「チョコレートナイト」にコアメンバーとして参加
- 29 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)

12月

- 5 第4回ロータス寺市に出店
- 8-15 東ティモールに出張
- 9 武蔵大学で講義
- 12 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 16 BMW技術協会若手幹事会に参加
- 17 第2回「再生エネルギー事業化準備会」に参加
- 20 第9回国際有機農業映画祭に出店

1月

- 8 第9回かめのみ賞表彰式に出席
- 23 チョコレート・アライアンス主催の「チョコレートナイト」にコアメンバーとして参加
- 31 東京朝市・アースデイマーケットに出店(P to P Café)

2月

- 1 パルシステム埼玉・平和募金贈呈式に出席
- 2 東京学芸大学附属高等学校の社会科学実習受け入れ
- 3 早稲田大学アジア太平洋研究科East Asian University Institute (EAUI) プログラムのフィールドトリップ受け入れ
- 4-14 ヒカリエ ShinQsの催事「ショコラ Zakka フェスティバル」にチョコレート・アライアンスとして出店
- 6-17 フィリピン・ネグロスに出張
- 19 BMW技術基礎セミナーに参加
- 20 理事会・評議員会開催
- 21 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 21-3/1 東ティモールに出張
- 23 第3回「再生エネルギー事業化準備会」に参加
- 27 ドキュメンタリー映画『遺佐子組み換えルーレット』上映会&ジェフリー・M・スミスさん特別講演会に参加
- 28 AOYAMA CACAO MARKETにATJと共同で出店

3月

- 26 特定非営利活動法人開発教育協会主催の「教材体験フェスタ2016」に参加
- 27 東京朝市・アースデイマーケットに出店 (P to P Café)
- 28 毎日新聞社主催の「学びのフェス2016春」にATJと共同で参加

広報・出版事業

機関誌ハリーナ (Vol.2.28号～31号発行)

2015年5月 **28号**

【特集】パプアと日本をつなぐカカオの物語

- * 先住民族の暮らしと自然を守る挑戦◎津留歴子
- * 「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップ、展開中!◎野川未央



2015年8月 **29号**

【特集】3.11 原発爆発事故から4年 福島の人びとの声を聞く

- ◎大内 督、高松祥子、佐藤良喜、仲里 忍、近藤 恵、佐々木るり、渡邊美幸、門間貞子、遠藤美保子



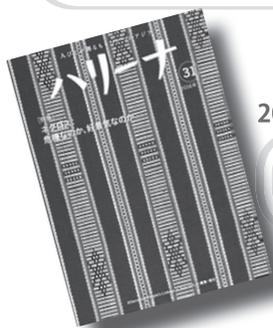
2015年11月 **30号**

【特集】主権回復から13年 東ティモールは今 ◎マリアノ・フェレイラ



2016年2月 **31号**

【特集】ネグロス：危機なのか、好景気なのか ◎寺田俊



※ウェブサイト上で『ハリーナ』のバックナンバーを全ページご覧いただけます。
<http://www.apla.jp/archives/3336>

手わたしバナナくらぶニュース 230～235号

特集ラインナップ.....

- 230** 農地改革から30年、ネグロス島の砂糖キビ農園労働者のいま (2015年5月発行)
- 231** 受け継がれる伝統と知恵、エコシュリンプへのこだわり (2015年7月発行)
- 232** 東ティモール・コーヒー産地初訪問記 (2015年9月発行)
- 233** 新研修生がやってきました♪ (2015年11月発行)
- 234** 友情と連帯を土台にしたカカオの民衆交易 (2016年1月発行)
- 235** 「手わたしバナナくらぶニュース」から「P to P ニュース」に生まれ変わります! (2016年3月発行)



『Kakao kita! (カカオ・キタ) チョコレートとパプアを知るためのワークショップ教材集』が完成しました

NPO 法人開発教育協会 (DEAR) の協力を得て、ワークショップ教材集を作成しました。今年度発売となった「手作りチョコレートキット」とあわせて、APLA スタッフが出張しなくても各地域でチョコレートやパプアについて楽しみながら学べるワークショップを開催できるように工夫しました。

また 2016 年 3 月に開催された『DEAR 教材体験フェスタ 2016』内で本教材を使ったワークショップを実施し、開発教育に興味・関心のある教員や学生の皆さんに実際に教材の中身を体験していただきました。参加された方、購入してくださった方からのフィードバックを反映させて、2016 年度には完成版を制作する予定です。



チョコレート・アライアンス

フェアトレードやオーガニックなど、生産者や環境に配慮して作られたチョコレート (「愛のチョコレート」と呼んでいます) の認知度を高め、積極的に選んでくれる消費者を増やしたいという想いのもと、そうしたチョコレートの輸入・販売・普及に取り組む企業・団体が立ち上げた「チョコレート・アライアンス」というネットワークに APLA/ATJ として参加しています。今年度は、全国 6 か所 (東京、北海道、神奈川、愛知、岐阜、鹿児島) で「もう一つのチョコレート展」を開催したほか、大地を守る会との協働によるプレス発表会や「チョコレートナイト」というイベントも開催し、メディアを通じた認知度向上の機会も数多くありました。



「チョコレートナイト」の参加者の皆さん

交流事業

「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップ

今年度で 3 年目となるパプア産のカカオからチョコレートを手作りするワークショップですが、東京、埼玉、福島、福井、静岡、滋賀、岡山、広島、福岡と全国を行脚しました。さらに、グリーンコープやパルシステム (東京、埼玉)、アーバンリサーチ・ドアーズ虎ノ門店でもワークショップを開催し、合計 28 か所で 500 人以上の方にご参加いただきました。カカオから手作りするチョコレートの魅力、産地のパプアの状況を多くの人に伝え、手作りチョコレートキット等の販売にもつなげることができました。



手作りチョコレートには、子どもたちも興味津々 (エコギャラリー新宿にて)

◆ 2015 年度も全国各地で「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催しました・・・・・・・・・・・・・・・・

- | 〈開催日〉 | 〈主催者・開催地域〉 |
|----------|--------------------------------|
| 6月29-30日 | グリーンコープ共同体 |
| 11月 | グリーンコープ (おおさか、さが、やまぐち、かごしま) |
| 11月26日 | 埼玉県立杉戸農業高校 |
| 11月29日 | 埼玉県高校教職員組合 |
| 11月30日 | パルシステム東京・ふちゅう委員会 |
| 12月7日 | パルシステム埼玉・桶川北本鴻巣地区会 |
| 1月9日 | エコギャラリー新宿「こどもエコ広場新宿」2015 |
| 1月18日 | hako gallery (東京都渋谷区) |
| 1月19日 | パルシステム東京・食育ぽけっと委員会 (調布市) |
| 1月21日 | 高麗川南公民館 (埼玉県日高市) |
| 1月23日 | ピズー (広島県尾道市) |
| 1月24日 | URBAN RESEARCH DOORS 虎ノ門店 |
| 1月24日 | 岡山フェアトレードの会、JNCN 岡山 (岡山県岡山市) |
| 1月29日 | パル埼玉・川口北鳩ヶ谷地区会 |
| 1月30日 | 草津市国際交流協会 (滋賀県草津市) |
| 2月5日 | パル東京・育児のツボ委員会 (国立市) |
| 2月6日 | こどものいえそらまめ (福島県福島市) |
| 2月6日 | 健康幸房シムラ (東京都羽村市) ※ 吉田シェフのみ |
| 2月7日 | from a & e フロムエカフェ (東京都荒川区) |
| 2月13日 | 国際文化フォーラム in 逗子 2016 (神奈川県逗子市) |
| 3月7日 | 熱海市立初島小・中学校 |
| 3月16日 | パルシステム東京・茶々ネット委員会 (立川市) |

二本松有機農業研究会との協働

東日本大震災・福島原発事故発生以降、二本松有機農業研究会がめざしてきている「再生可能エネルギー」事業の具体的な検討が開始され、その実現に向けて事業化準備会が発足しました。協働を進めてきているアユス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）とともにAPLAとしても準備会のメンバーに加わりました。2015年度は4回の準備会が開催され、発電形態（オフグリッドや営農型発電の可否検討）、資金調達方法、設置場所選定について検討するとともに、すでに設置された現場の視察研修も実施しました。農民による再生可能エネルギー事業ということで、バイオマス発電が理想的ですが、壁が厚いため、まずはソーラーシェアリング（ソーラーパネルを高い位置に設置して、その下で営農を継続する）を検討しています。

APLAとしてのこれまでの主な協力内容は、補助金申請への協力、金融機関からの融資を受けるためのアドバイザーの紹介、寄付金募集方法の検討などです。本事業計画（案）の特徴として、発電設備設置の際には「結」的な考えで、関係している農家やグループが農閑期に互いに設置工事に参加することで、工事費削減とともに、次世代農業者・新規参入農業者の横の連携・連帯を作り出していくことがあります。2016年1～2月には福島県川俣町でのソーラーシェアリング設置工事に二本松有機農研等の若い世代が工事にあたりました。準備が順調に進めば、二本松でも2016年～17年にかけての農閑期に着工することになります。

福島ツアーの開催

2015年11月14～15日に「APLA福島ツアー」を開催しました。バナナ募金支援先の保育園の訪問、二本松有機農研の収穫祭参加と交流、綿つむぎ体験などのプログラムを組み、10人が参加しました。



綿つむぎに夢中のツアー参加者

フェアトレード事業

APLA ネットショップ

カカオから作る手作りチョコレートキット

昨年度より試験的に販売を試みていた「カカオから作る手作りチョコレートキット」が2016年1月に販売開始となりました。インドネシア・パプア産のカカオがたくさんの人に広まるように、APLAも商品の開発段階から関わり、約1年間の試作期間を経て商品化する運びとなりました。

みんなのwaギフトセット

以前から販売していたカカオクッキー wa をギフト用に詰め合わせた商品を販売。完全受注生産型で11月～3月にかけて販売し、クリスマスプレゼント、お歳暮、バレンタインデー等、様々な用途で使ってもらえるようなギフトセットで、1箱の内350円が自然エネルギーの普及や福島の子どもの保養の活動資金に充てられます。



2015 年度 (2015 年 4 月～2016 年 3 月)	
ネットショップ	9,417,747 円
イベント (移動カフェ含む)	1,720,048 円
事務所販売ほか	1,642,495 円
手わたしバナナくらぶ	2,223,641 円
エビくらぶ	355,050 円
コーヒーくらぶ	50,372 円
売上合計	15,409,353 円

P to P café (移動カフェ)

月一回、代々木公園 (東京都渋谷区) で開催されている東京朝市・アースデイマーケットに継続して出店しています。東ティモールやラオスのコーヒー、バランゴンバナナのジュースなどをその場で味わってもらいながら、民衆交易のストーリーやそれぞれの品物の魅力を伝える貴重な機会となっています。継続して出店することで徐々にですがリピーターも増え、出店者同士のつながりもできています。



P to P café 開店中

手わたしバナナくらぶ

2015 年度の新規入会者数は 5 名。会員 62 名の内、定期的に頼んでくださるのは 40 名弱。今後も入会者を増やすために積極的に広報していきます。

エビくらぶ

会員さんへのお便りの内容を工夫するなど、前年から地道に継続してきた成果か、エビの販売価格が上がっているにもかかわらず会員数に大きな変動はなく、新規会員も増えました。今後も一人でも多くの方に、エコシュリンプや産地に関する情報を届けられるようにしていきます。

コーヒーくらぶ

コーヒーくらぶ開始以降、新規入会や会員継続者が少なく、売り上げが伸び悩んでいるため、来年度からの販売形態の変更を検討しています。

緊急支援報告

福島の子どもたちに届けよう・バナナ基金

2011年3月の福島第一原発の事故後、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるようにと、農業を使わずに栽培されているバランゴンバナナを福島の保育園・幼稚園に定期的にする活動を2011年11月より継続しています。

募金状況

年度	金額	内訳
2011年	1,448,395円	海外からの支援金 645,512円 国内の募金額 802,883円
2012年	864,000円	国内の募金額 864,000円
2013年	966,963円	国内の募金額 686,963円 助成金(日蓮宗あんのん基金) 280,000円
2014年	827,532円	国内の募金額 827,532円
2015年	473,136円	国内の募金額 473,136円

バナナ発送状況・その他経費内訳

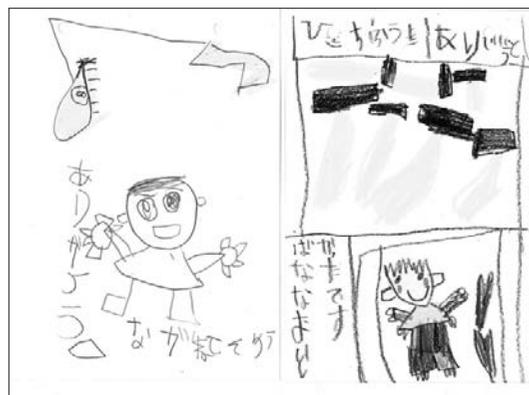
年度	金額	内訳：バナナ発送重量	内訳：その他
2011年	459,299円	404,999円 (1,162kg)	54,300円 (チラシ作成費、出張費等)
2012年	1,076,755円	991,646円 (2,884kg)	85,109円 (資料発送費、ワークショップ出張費経費等)
2013年	1,304,389円	1,265,011円 (3,427kg)	39,378円 (チラシ作成費、資料発送費、出張費経費等)
2014年	937,207円	896,816円 (2,269kg)	40,391円 (出張、資料発送費等)
2015年	581,951円	581,951円 (1,427kg)	0円

※募金金額の最大10%を事務経費として使用。

発送先保育園・幼稚園

いわき市2件、南相馬市1件、相馬市1件、二本松市1件、郡山市2件、福島市13件：合計20件

※郡山市の1件と福島市の1件は2015年度中に閉園。



バナナの届け先の子どもたちから届いたお礼の絵

<他団体とのネットワーク>

- ・アークス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)、オルター・トレード・ジャパン (ATJ) とともに福島でつながった人びとを応援する活動、そのための「カカオクッキー wa」の販売を継続しています。
- ・NGO 非戦ネット
- ・チョコレート・アライアンス
- ・東ティモール・フェスタ実行委員会
- ・辺野古・高江を守ろう！NGO ネットワーク

<2015 年度の賛同・協賛>

- ・3カ国市民社会共同声明：「プロサバンナ事業のマスタープランに関する公聴会」に関する無効化呼びかけ
- ・日越両政府にニントゥアン第二原発計画の中止を求め、同計画による住民立ち退きに抗議する国際声明
- ・「TPP 交渉及び審議・検討における透明性」に関する対政府要請
- ・安倍晋三首相とナレンドラ・モディ首相への国際共同アピール「インドの使用済み核燃料再処理を可能とする日印原子力協定を締結するな」
- ・安全保障法制に反対する NGO 国際共同声明
- ・共同声明「翁長沖縄県知事の辺野古埋め立て承認取り消しを支持～政府は、沖縄の民意を受け止めるべき～」
- ・国際シンポジウム 2015 「消費者が選べる遺伝子組み換え食品表示をめざして」
- ・プロサバンナ事業「市民社会関与プロジェクト」に対する抗議声明～抜本的な見直しに向けた要請～

< 会員数報告 > 2016 年 3 月 31 日時点

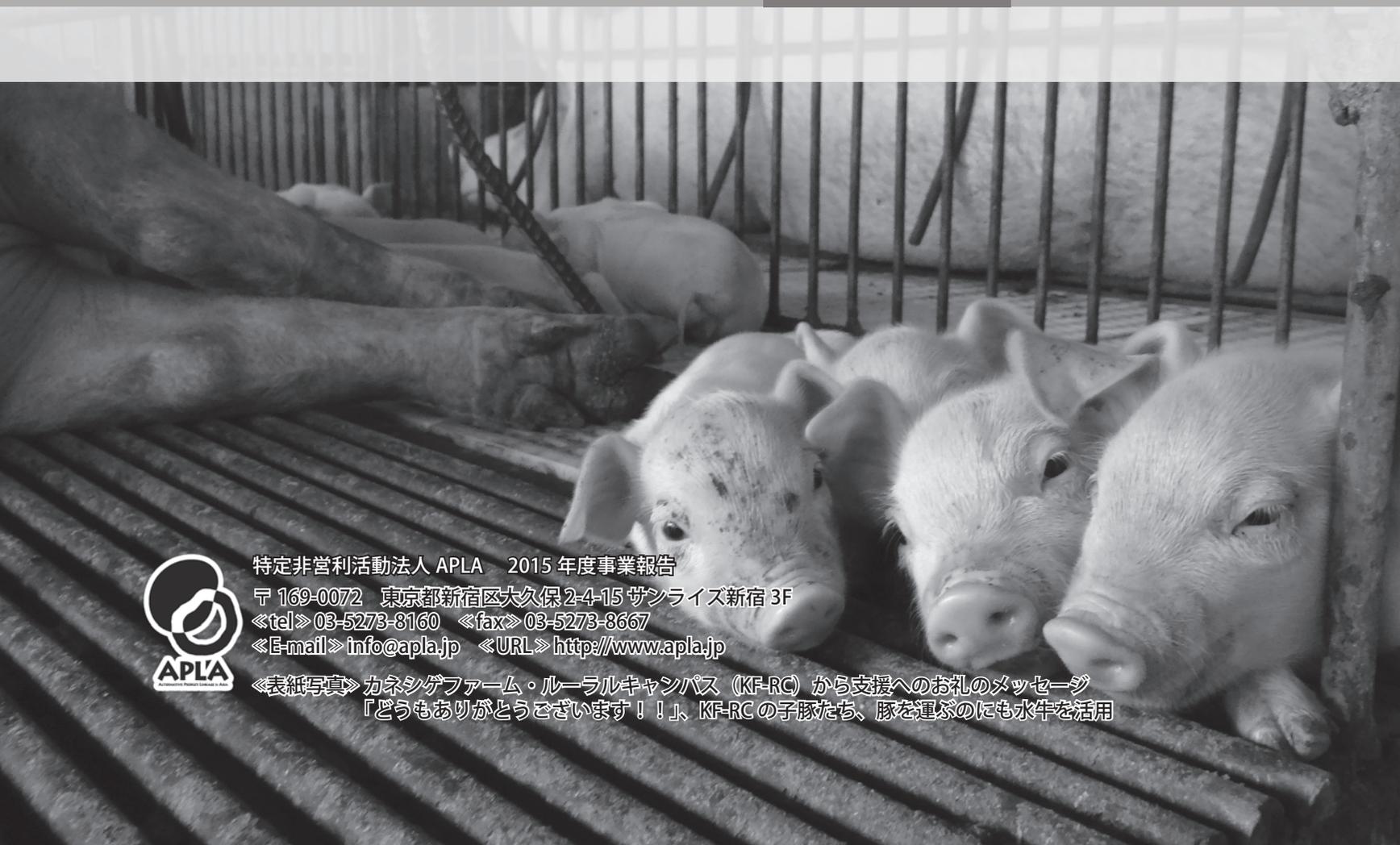
	個人	団体	合計
正会員	95	34	129
賛助会員	88	13	101
合計	183	47	230

< 組織体制 >

- 理 事 : 秋山真兄 (共同代表) 疋田美津子 (共同代表) 吉澤真満子 (事務局長)
市橋秀夫 上田誠 大野和興 鹿毛優子 廣瀬康代 堀芳枝 (以上 9 名)
- 監 事 : 近藤康男
- 評 議 員 : 赤松結希 秋山澄兄 安藤丈将 岡公美 近藤恵 出口雅子 橋本順子
箕曲在弘 (以上 8 名)
- 顧 問 : 弘田しずえ 前島宗甫
- 事 務 局 員 : 吉澤真満子 (事務局長) 野川未央 (専従) 大久保ふみ (専従) 寺田俊 (専従)
坂野亜希子 (アルバイト) 大橋成子 (非専従)

< 総会・理事会・評議員会 >

- 総 会 : 第 8 回総会 (2015 年 5 月 23 日)
- 理 事 会 : 第 22 回 (2015 年 10 月 3 日) 第 23 回 (2016 年 2 月 20 日) 第 24 回 (2016 年 4 月 23 日)
- 評 議 員 会 : 第 17 回 (2015 年 10 月 3 日) 第 18 回 (2015 年 2 月 20 日)



特定非営利活動法人 APLA 2015 年度事業報告

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿 3F

《tel》03-5273-8160 《fax》03-5273-8667

《E-mail》info@apla.jp 《URL》http://www.apla.jp

《表紙写真》カネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) から支援へのお礼のメッセージ
「どうもありがとうございます!!」、KF-RCの子豚たち、豚を運ぶのにも水牛を活用